

年間授業計画様式

葛飾総合高等学校 令和2年度 教科 理科 科目 理系物理基礎 年間授業計画

教 科：理科 科 目：理系物理基礎 単位数：4単位

対象学年組：第2、3学年(A組～F組)

授業担当者：関本

使用教科書：(改訂版物理基礎 [数研出版])

使用教材：(改訂版リードα 物理基礎・物理 [数研出版])

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
1章 1.直線運動の世界 課題配布 4月	1. 速さとは何か。瞬間の速さ、平均の速さを理解させる。 vtグラフを用いて、距離や加速度の導き方を理解させる。	課題提出内容を評価	

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
<p>1章 1. 直線運動の世界 課題配布 5月</p>	<p>1. 速さとは何か。瞬間の速さ、平均の速さを理解させる。 vtグラフを用いて、距離や加速度の導き方を理解させる。</p>	<p>課題提出内容を評価</p>	

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
<p>1章</p> <p>1.直線運動の世界</p> <p>A. 速さ、速度 B. 等速直線運動 C. 合成速度、相対速度 D. 加速度</p> <p>2. 力と運動の法則</p> <p>A. 力のつりあい B. 力の合成と分解 C. 運動の第一法則 D. 運動の第二法則 E. 運動の第三法則</p>	<p>1. 速さとは何か。瞬間の速さ、平均の速さを理解させる。</p> <p>vtグラフを用いて、距離や加速度の導き方を理解させる。</p> <p>相対的な運動を理解させ、ベクトル的考え方を例にして速度の合成・分解を考える。</p> <p>2. 力とは、どういう作用のことか。力と運動の関係を明らかにする。</p> <p>力は、ベクトルであることを理解させる。力の合成と分解を理解させる。 作用点・作用線・向き・大きさを理解させる。 慣性の法則を理解させる。 運動の法則を理解させる。 作用反作用の法則を理解させる。</p>	<p>内容の理解度とともに授業態度、提出物状況を評価する。 ノート、ワークの点検、考査の点数、出欠状況をもとにす</p>	4

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
<p>2章 1. 物体にはたらく重力 A. 鉛直投射 B. 放物運動 2. 摩擦力 A. 液体や気体から受ける力 B. 抵抗のある運動</p>	<p>1. 力の一部である重力を理解する。 運動を、デカルト座標で表現できることを学び、vtグラフとxtグラフを関連させて理解させる。 2. 日常生活の中に、つねに摩擦が存在することを理解させる。 浮力が圧力差によること。空気の抵抗力に注目して、物体の運動を考える。</p>	同上	12

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
8月 3章 1.仕事とエネルギー A.仕事の原理と仕事率 B.重力による位置エネルギー C.弾性力による位置エネルギー D.運動エネルギー E.力学的エネルギーの保存	1. 仕事の定義。エネルギーの定義を理解させる。 力で得しても、距離で損をして、仕事としてはトータル変わらないこと。 エネルギーは、仕事をする能力であり、エネルギーはやり取りできるものである。 位置エネルギー、運動エネルギーの定義と、それぞれの交換で、力学的エネルギーの保存が成り立つことを理解させる。	同上	4

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
<p>2. 热</p> <p>A. 热と温度 B. 物質の三態</p> <p>3. 热と仕事</p> <p>A. 热効率と不可逆変化。</p> <p>9月</p>	<p>2. エネルギーの位置形態として、热があることを理解させる。</p> <p>熱が分子の運動エネルギーと関連していること、温度との関係を理解させる。 温度や圧力によって、状態変化をすることを理解させる。</p> <p>3. 热はエネルギーの一種であるので、仕事をすることが出来ること。他のエネルギーから、热に変換することができる事を理解させる。</p> <p>熱はエネルギーであるが、100%仕事にすることはできないこと、まわりに影響を与えることなく、低温の物体から、高温の物体に、热移動をすることは出来ないことを学ばせる。</p>	同上	12

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
4章 1. 波 A. 波の伝わり方 B. 波の表し方 C. 波の重ね合わせ D. 波の反射 E. 定常波 10月	1. いろいろな波の種類を把握する。 波は、媒質を伝わること。縦波・横波を表現する方法。波の重ね合わせの原理、波の反射、波の屈折について理解させる。 進行波と定常波について、その違いを理解する。	同上	12

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
<p style="text-align: center;">11 月</p> <p>2. 音の伝わり方</p> <p>A. 振動する弦 B. 振動する気柱</p> <p>5章 1. 電気</p> <p>A. 電流と電気抵抗 B. 回路での電流の流れ方 C. 電力と電力量</p>	<p>空気を伝わる波を考えさせる。</p> <p>音は波であるので、波の性質を示すことを理解させる。</p> <p>音の三要素と波の対応関係を理解させる。 気柱には、定常波がてき、固有の振動数になることを理解させる。</p> <p>1. 電気のはたらきを理解させる。</p> <p>オームの法則からキルヒhoffの法則に発展させ、回路に流れる電流を求める方法を理解させる。</p>	同上	12

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
12月 E. 電流がつくる磁界 B. モーターの仕組み C. 直流と交流	フレミング左手の法則、右ねじの法則により、電流と磁界の大きさと力の関係を理解させる。 ローレンツ力を理解し、それを応用して、モーターの原理を理解する。電源電圧に直流と交流があること、その違いを理解させる。	同上	8

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
<p>3. エネルギーの変換と保存</p> <p>A. 力学的エネルギー B. 熱エネルギー</p> <p>1月</p>	<p>3. エネルギーは、力学的エネルギーと熱エネルギーではなく、さまざまな形のものがあり、それは相互に変換していることを学ばせる。</p> <p>エンジン、摩擦熱等を学ぶ。</p>	同上	8

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
<p>1. 電気エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> A. 発電機 B. 熱電対 C. 太陽電池 <p>2. 化学エネルギー</p>	<p>1. 電気のエネルギーが、電流・電圧を使って表すことが出来ることを学ぶ。</p> <p>発電機、熱電対、太陽電池の仕組みを学ぶ。</p> <p>電池、電気分解、燃焼を理解する。</p>	<p>学年末については、学力スタンダードを兼ねて、全範囲から考查を行う。</p>	<p>12</p>

2月

指導内容	科目物理基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
3. 光エネルギー、核エネルギー 3月	<p>3. 光合成、ホタル等光もエネルギーの一つの形態であることを理解させる。</p> <p>放射性崩壊、核分裂、核融合により、物体そのものがエネルギーの位置形態であることを学ばせる。</p>	同上	4